

小浜の里山再生生活用の目標 豊かな海につながる 里山の自然とにぎわいの再生	里山再生の方針	10年後（2028年）の里山再生の目標	目標達成に向けた取組事項
	里山の生業育成	市内に、“山に生きる人びと”が100人存在する ※平成29年度 50人	地産地消の木材利用の促進 木質バイオマスによる熱供給システムづくり 里山の特産品づくり
	元気な森の姿の再生	市内の里山では、毎年135%が手入れされている ※平成28年度 105%/年	健康な森の姿の再生 森の番人育成事業
里山とのふれあい向上	市内では、毎年600人が木育を受けている ※平成29年度 300人/年	山から海につながるグリーンツーリズム 森の学習・体験プログラム事業	



守りたい、誇りを持てる郷土の自然 特集 豊かな海につながる里山の未来

小浜は、自然豊かで四季の輝きを放つ海や山川、豊富な海産物や滋味あふれる農作物などの食材に恵まれた地域です。この豊かなめぐみは、背景にある森林が生み出すものです。その一方で、森林（＝里山）は、かつてのように人の手は入らず、シカやイノシシが増え、さらに林業の衰退や里山への関心の低下が連鎖し、とても荒れた状態が広がっています。このような、里山の荒廃は小浜が誇る豊富な海産物や農産物の存続を危うくするものです。

将来にわたって郷土が誇る自然のめぐみを楽しむためには、市民・団体・事業者・行政が協働することで、豊かな海につながる里山の自然とにぎわいの再生に取り組むことが不可欠です。

■問い合わせ 農林水産課 ☎ 64・6024

小浜の里山 今のすがたと課題・問題

■小浜の里山の特徴

小浜の南側は山々に囲まれ、京都府境および滋賀県境であり、それぞれを源とする北川、南川が市街地を横断して小浜湾に注いでいます。山林に目を向けると北側は天然林の占める割合が多く、若狭湾国定公園にも指定されています。南側は人工林を含む天然林が多い状況になっています。市の総面積のうち約82%を森林が占めています。

小浜の山林は、山地と集落の距離（人里）が近いことが特徴であり、人々の生活や産業等と密接に関係する里山が市域全体に広がっています。

■里山が抱える課題と問題

かつては、市民のエネルギー源として、また、さまざまな資源をもたらしてきた里山ですが、現在は、すっかり人の手が入らなくなってきました。植林地においても十分な管理が行き届いていないのが現状です。シカによる食害は、林業被害にとどまらず、生活環境被害にも及び、土砂災害を誘発する危険もあります。

里山が抱える多様な問題が、複雑に関係しあい、さらに問題を深めています。里山の荒廃は、里山地域だけでなく、広く、小浜の生活文化や防災力の低下にも影響すると考えられます。

「小浜市里山創造計画」とは？

市では、郷土の自然を守るために、第5次小浜市総合計画や小浜市環境基本計画、小浜市森林整備計画などを策定しています。本計画では、これらの諸計画との整合を図りながら、小浜の里山再生の具体的な取り組みを策定しました。

市民・事業者・行政が、市内の里山の重要性和現状を再認識し、里山を守るための取り組みを進めています。

「里山」とは？

一般的に、里山とは人里近くに広がる山地のことを指します。小浜の山林は人里との距離が近いことが特徴であり、市境まで人の手が入った森林が広がっています。本計画では、「里山」をスギ・ヒノキなどの人工林、コナラやアカマツなどが生える二次林も含め、市域全体の森林を指す用語として使用しています。

策定の経過

市における森林の現状、課題などを明らかにして、里山の再生を目指した計画について検討するために、市民や森林関係者など15人の委員で構成する「市里山創造会議」を平成29年10月に設置しました。

計画策定にあたっては、木質バイオマス資源（※）の発生量と利活用に関するアンケート調査や委員以外の森林関係者も参加するワークショップを実施し、里山再生の具体的な取り組み内容について検討を行いました。30年3月までの間に、2回のワークショップと4回の検討会議を開催し、計画をまとめました。

※樹木の伐採や造材のときに発生した枝、葉などの林地残材や、製材工場などから発生する樹皮やのこくずなど、木材からなる再生可能な資源のこと



遠敷小学校児童が「山と獣に関する総合学習」で地域の里山について学ぶ（平成29年11月1日）

現在、市内の小中学校において、里山体験や鳥獣害について学習する『山の総合学習』に取り組んでいます。今後、さらに取り組みを進め、市内の全小中学校に広がっていきます。

Pick Up

3 里山とのふれあい向上

Pick Up!

山と獣に関する総合学習

市では、里山学習を含めた農林水産業について、体験を通じて学ぶ学習プログラムを作成しました。このプログラムを活用した総合学習を開催していくことで、より多くの市内の小中学生が農林水産業に興味を持ち、将来の農林水産業の担い手の育成につながることを期待されます。



平成29年度は市内5つの小中学校で、シカ肉入りカレーを提供するジビエ給食を実施

市内の小中学校において、県猟友会小浜支部と連携し、里山体験や鳥獣害対策を学習する取り組みを実施しています。これまでも、市内の小中学校で野生鳥獣の実態について学ぶ機会を設けるとともに、平成26年度には県内初のジビエ給食を行うなどの取り組みを行ってきました。

【小浜の里山未来像】



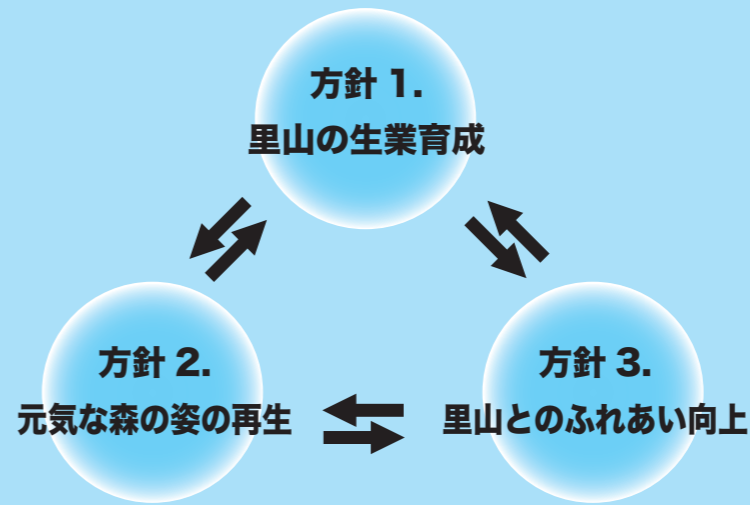
山での生業により人が増え、にぎわいを取り戻し、里・市街地では地元産材の活用や木質バイオマスの活用が進みます

市民・団体・事業者・行政が連携『小浜市里山創造計画』を推進するため、「小浜市里山創造協議会（仮称）」を設置し、各構成員の取組内容の情報共有を図るとともに、みんなで力を合わせて、小浜市域における里山創造に関わる

取り組みを進めていきます。また、一年ごとに取組計画を立て、実行・振り返り・改善策を検討します。進捗状況を踏まえて、本計画は5年ごとに見直しを行い、里山の再生に向けて取り組んでいきます。

【小浜の里山再生方針の関連性】

相互に関連する里山再生の方針



里山での生業を育成し、山の管理を進めることが元気な森をつくりだし、人々の里山への関心を高めます。『小浜市里山創造計画』の3つの方針はそれぞれが全てに関連しています。

個別に進めるのではなく、相互に関連付けながら取り組みを進めることで「豊かな海につながる里山の自然とにぎわいの再生」という目標の達成に近づけていきます。

1 里山の生業育成

木材の地産地消の促進、薪の生産・ワサビやウルシ、アブラギリを活用した特産品の開発を進めて、森林組合をはじめとした事業者はもちろん、山林所有者が自ら山林資源を活用できる仕組みを作ります。現在、山林所有者や市内NPO法人などが主体となり、薪生産の取り組みを始めています。間伐材などを活用して、薪ストーブユーザー向けに販売する薪の生産を目指すとともに、薪ストーブユーザーのネットワーク作りにも取り組んでいます。



森林資源を活用していくきっかけに

当法人は、持続・循環する社会を目指した地域づくりを目的に若狭の豊富な水資源および森林資源の利活用や環境保全事業などの活動を行なっています。

手入れされずに放置された山林は荒廃を招き、生態系の崩壊につながります。森林をエネルギー資源として有効活用していくために、平成29年からは、「薪の仲介ネットワーク事業」を始めました。活動を続けることで、みんなが山林に目を向け、森林資源の活用が図られることが大切だと感じています。



INTERVIEW

NPO法人 若狭くらしに水舎
よしだひろのり
代表 吉田裕則さん
(36歳・遠敷九丁目)

2 元気な森の姿の再生

里山が適正に管理されていないと、水資源を蓄え、育み、守る働きや土砂災害防止といった里山が持つ機能が発揮されなばかりか、痩せ細った木が倒れたり、土壌が痩せ保水力が低下したりするなど、災害の原因にもなるとも言われています。適正な管理を進め、元気な森の姿を再生するために、樹木への獣被害を防ぐ取り組みや間伐が進められています。今後は、新たに森林の境界調査や森の番人（狩猟者）の育成の取り組みも進めていきます。

